特集
矢板の未来のために…

４月 17 日（金）、職員代表に迎えられて２期目となる齋藤 淳一郎市長が初登庁しました。登庁後、職員に向けて行われた訓示では、新型コロナウイルス感染拡大を防ぐため、議会中継システムを用い、モニター越しにこれからの取り組みや自身の想いを職員に伝えました。

今号の特集では、市民から２期目の市政運営を任された齋藤 淳一郎市長からのごあいさつと、４月から新たに地域おこし協力隊員として活動を始めた２人を紹介し、矢板の未来のために動き出す３人の想いをお伝えします。

矢板の未来のために…

小規模自治体のトップランナーを目指して

新型コロナウイルス感染症の感染拡大を防ぐため、さまざまな配慮をしながらの市長選挙ではありましたが、多くの市民の皆さまのご支援をいただき、2回目の当選をすることができました。まずは、目前の危機として迫っている新型コロナウイルス感染症対策に全力を尽くしてまいりますが、これまでのシャープ工場跡地の有効利用や老朽化した市庁舎の整備など、市民の皆さまとともに「支え合い、人に優しい安全安心な矢板」の実現に向けて邁進（まいしん）してまいりたいと思います。

また、我が国は本格的な人口減少局面に入ってきております。持続可能な矢板市をつくるためには、これまで行っていた子育て支援や高齢者福祉の取り組みをさらに進めていかなくてはならないと考えております。市民の皆さまにも、お知恵をお借りし、時には進んで汗を流していただき、矢板市が生き残るためにお力を貸していただきたいと思います。

さらには、新たな民間活力を生かすなど、課題への対応や新たな事業の実現を通して、矢板ならではの「矢板モデル」「矢板スタイル」と呼ばれるような創意工夫を発揮し、新たな矢板の未来を切り拓きたいと考えております。そして、県内はもとより全国の小規模自治体のトップランナーとなれるような市政運営に努めてまいりますので、市民の皆さまにおかれましても、より一層のご支援とご協力を賜りますようお願い申し上げます。

訓示の様子

【市長２期目の重点事項】

塩谷病院の機能強化への支援

まず第一に、新型コロナウイルスの感染拡大が懸念されることから国際医療福祉大学塩谷病院への支援に取り組ませていただきたいと考えております。

今後は、感染症指定医療機関に限らず一般病院にも入院や治療などの対応が必要になる可能性があります。

現在、本市に指定医療機関が設置されていない現状をふまえ、一朝有事に備えるべく国が創設する感染症緊急対策費交付金を活用し、市内医療機関として中核を担う塩谷病院に対し、設備の導入や医師の確保などの支援に取り組んでまいります。

シャープ工場跡地の有効利用

土地所有者であるシャープ株式会社に対し、市の意向も伝えながら今後も協議を進め、より良い方向に導いていきたいと考えております。なお、都市計画における用途地域を現状の工業系から商業系への規制見直しについても検討を行い、有効利用につなげてまいります。

市庁舎整備

平成29年３月に庁舎整備等基金を創設したところでありますが、現在の積立額は約２億円にとどまり、整備費用としては全く足りる状況ではありません。

今後については、民間活力の導入による、市庁舎とほかの公共施設をセットにした複合型施設の整備を検討し、市民生活の利便性向上につながるよう進めてまいります。

少子高齢化対策

子ども向けの取り組みとしましては、子育て支援として創設しました子ども未来基金を活用した学校給食費の助成強化、また今年度に予算計上しております「（仮称）子ども未来館」の整備にも取り組んでまいります。

また、高齢者向けの取り組みにおいては、現在の定時定路線の市営バスに代え、来年秋を予定しておりますデマンド交通の導入を目指し、高齢者の移動・交通手段の確保にも取り組んでまいります。

広域連携

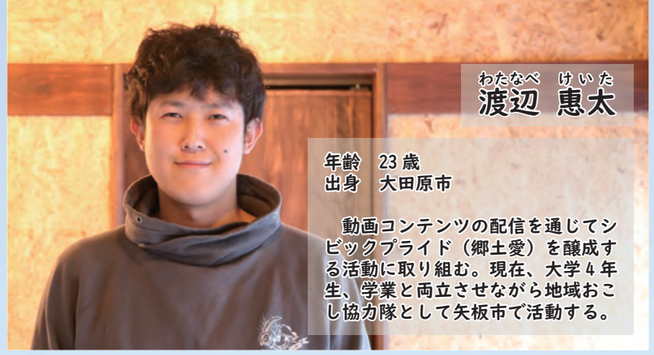
市長就任以降、北那須地域（大田原市、那須塩原市、那須町）とは自転車を活用したまちづくり、日本遺産を活用した観光振興などで連携を図ってきたところではありますが、今後は気候変動対策においても連携を深めてまいりたいと考えております。

なお、来年３月を予定しております矢板北パーキングエリアでのスマートインターチェンジの供用開始をきっかけに、さらなる連携強化にもつなげてまいります。

矢板市長　齋藤 淳一郎

新たな地域おこし協力隊員が就任しました！

４月１日（水）、矢板市で８、９人目の地域おこし協力隊員となる渡辺恵太さん、手塚将之さんに委嘱状が交付されました。２人は、矢板ふるさと支援センター「TAKIBI」で人と人をつなげ、新しい矢板市を創る取り組みに協力してくれます。



渡辺 恵太（わたなべ　けいた）

年齢　23歳
出身　大田原市

動画コンテンツの配信を通じてシビックプライド（郷土愛）を醸成する活動に取り組む。現在、大学４年生、学業と両立させながら地域おこし協力隊として矢板市で活動する。

矢板のPR活動に貢献したい

私が矢板市の地域おこし協力隊に応募した理由は、矢板市のPR活動に貢献したいと思ったからです。きっかけは、昨年の秋に偶然寄った矢板市内にある古民家カフェ「WASHINKAN」でした。古民家カフェの流行は知っていたのですが、矢板市にもこのような施設があるのかという新たな発見がありました。それから調べていくうちに、矢板市は伝統的な文化を尊重し、かつ新しい取り組みが成されている魅力的な市であることが分かりました。これらを市民の方たちや、日本、そして世界に発信し、矢板市を発展させるための一員になりたいと思い、地域おこし協力隊という道を選びました。

「働・暮・遊」に着目した動画作成

矢板市民の働き、暮らし、遊びの３点に着目した動画コンテンツの作成・配信に取り組みたいと考えています。「矢板市に住む」リアルを提供することで、市外の視聴者へ矢板市の認知拡大を図るほか、市内の視聴者には魅力の再認識を図ることができると考えています。また、この動画コンテンツを、ゆくゆくは市民の皆さんと一緒に作っていけたらとも思っています。私だけではなく、地域全体の活動にしていくことが目標です。

対話を大切に

矢板市にはさまざまな魅力があります。豊かな自然、人情味あふれる大人たち、将来有望な子どもたち、多種多様な魅力が地域のあちらこちらにあふれています。そのような魅力を外へ発信するために、私は皆さんとの対話を大切にしていきたいと思っています。私が持っている矢板市に関する知識では、まだまだ不十分です。なのでぜひ、街中で私を見かけた際にはお声掛けください。そして共に矢板市について語り合い、共に矢板市に住んでいてよかったと思う瞬間をたくさん作っていきましょう。

身に付けたスキルを活かした活動を

大学卒業後、矢板市での就職を希望していましたが、当時は残念なことにやりたい仕事が矢板市にはありませんでした。そのため、首都圏で７年間WEB関係の仕事をしながら、休日に広島などで地域アドバイザーとして働き、地域課題を学びながらスキルを身につけてきました。

昨年、矢板ふるさと支援センター「TAKIBI」を知り、活動の内容に興味を持ち、とても共感しました。持続可能な地域を創るためには、地域住民の皆さんの協力が必要です。さまざまな地域で課題解決に取り組んできた自分の着眼点と考え方を活かし、生まれ育った矢板市に貢献できる地域おこし協力隊になりたいと思っています。

「つなぐ」活動をしたい

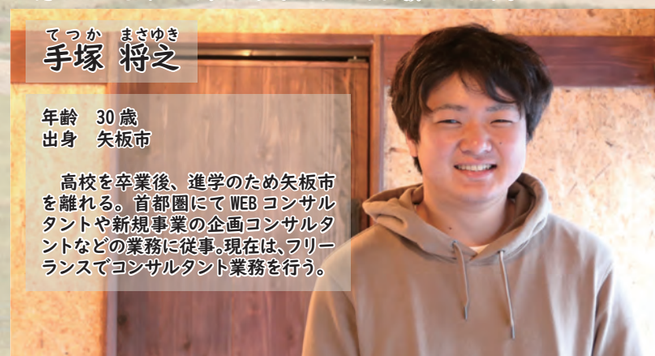
大きく分けて２つのことにチャレンジしたいと考えています。

１つ目は、「チャレンジする人を増やす」ことです。地域活動を志す人が集う場所や活動、携わる人に対して、これまで経験してきた事業開発やコーチングのスキルを活用して、チャレンジする人を増やす活動を行いたいです。「事業にチャレンジしてみたいが勇気がない…。」「何からはじめたらいいのかわからない…。」という方は私にぜひ気軽にご相談ください。

２つ目は、「人との交流の機会を増やす」ことです。これまでたくさんの地域課題を見る中で、地域コミュニティの減少が、さまざまな問題を引き起こしていると感じていました。矢板ふるさと支援センター「TAKIBI」のように、地域に人が集まって話せるような場と機会をつくり、人と人をつなげる活動をしていきたいと考えています。

交流を増やす場づくりを

みなさんと楽しめる場づくりをいろいろ企画していきたいです。そして、たくさんのアイデアを見つけることで矢板市の活性化につなげていきたいと思っていますので、どうぞよろしくお願いします。



手塚 将之（てつか　まさゆき）

年齢　30歳
出身　矢板市

高校を卒業後、進学のため矢板市を離れる。首都圏にてWEBコンサルタントや新規事業の企画コンサルタントなどの業務に従事。現在は、フリーランスでコンサルタント業務を行う。